



令和3年3月吉日

卒業に寄せて

～ 6年生のみなさんへ ～

京都市立紫竹小学校
スクールカウンセラー
森岡 理恵子

小学校の6年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

この一年は臨時休業からのスタートでした。6月の再開後にはたくさんの勉強をしました。ウイルス感染予防のためにがまんすることが多い一年をがんばりましたね。

今日は卒業するみなさんに、吉野弘（よしの ひろし）さんの詩を紹介（しょうかい）します。

生命は	いのち
自分自身だけでは完結できないように	つくられているらしい
花も	
めしべとおしひがそろっているだけでは	
虫や風が訪れて	
めじべとおしひを仲立ちする	
不充分で	
生命はすべて	
その中に欠如を抱き	
それを他者から満たしてもらうのだ	
私は今日	
どこかの花のための	
蛇（アブ）だったかもしれない	
そして明日は	
誰かが	
私と言う花のための	
蛇であるかもしれない	
(詩集『風が吹くと』所収)	

人はみな、寄りそいながら生きています。みなさんはうれしいことも悲しいこともたくさん体験をしてきたことでしょう。そのような時、「それでいいよ」「きっと、だいじょうぶ」と、見守ってくれたご家族や教職員の方々がおられました。「いっしょにがんばろう」と、はげましてくれた友だちがいました。

みなさんはひとりぼっちではありませんでした。

中学校では、たくさんの人と出会い、多くのことを学ぶでしょう。せおいきれないほどの体験をするかもしれません。でも、必ず、みなさんのことを信じて見守ってくれる人がいます。

どうぞ元気で。中学校生活を楽しんでください。

そして、つらい人のそばに立つことができる豊かな心をはぐくんでください。